

平成31年度小平市立小平第十二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要

1 調査目的・対象

学習に円滑に取り組むことができるための知識や、実生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能が身に付いていることを確認し、今後の学習に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

小学校においては第5学年まで習得し、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

本校の国語の平均正答率は、全国より2.2%、都より1%と、やや上回った。14問中、全国を下回ったのは6問で、「話す・聞く能力」の3問中の3問、「言語についての知識・理解・技能」の5問中の3問だった。一方、「書く能力」の3問は全て全国を上回り、12.3%の差をつけた問題もあった。

課題

漢字やことわざの問題で、全国の正答率を下回った。特に漢字は着実に習得させたい。

「話す・聞く能力」に課題がある。話し手の意図を捉えながら聞いたり、意図に応じて質問を工夫したりと、コミュニケーション能力を高めた

学校で取り組む具体的な改善策

- 漢字の小テストを定期的に行い、一層の定着を図る。また、家庭学習を呼び掛け、反復練習を促す。
- 单元の中で、児童が自分の考えをノート等に記入する時間を十分に確保する。自分の意見を発表したり、他の人の意見を聞いて自分の考えを深めたりする場面を多く設け、思考力や表現力を育てる。
- 「話す・聞く能力」を高めていくために、ペアや小グループでの話し合い活動や、インタビューや発表する機会など、学習の形態や指導の方法等を工夫していく。

【算数】

状況の分析

本校の算数の平均正答率は、全国より10.4%、都より7%上回った。また、各問題の正答率をみても、すべての問題で都を上回ることができた。4問あった数学的な考え方の記述式の問題について、都の正答率を大きく上回り、20%以上の差をつけた問題もあった。

課題

全14問中、正答率が6割を下回った問題は2問で、計算の仕方を解釈して活用したり説明したりする問題だった。解答を出す力だけでなく、既習事項を活用して解法を見出し、その解法が成り立つ理由を説明する力もつけていきたい。

学校で取り組む具体的な改善策

- 今後も、習熟度別指導を通して、主体的・対話的に学ぶ過程を大切に授業を行う。
- 思考力や表現力のさらなる向上を目指し、既習事項を活用して考えたり、ペアで説明し合ったりと、指導方法の工夫改善を図る。数直線や図、表、式、言葉等を用いて考えを表したり、説明したりする活動、自分が書いた式の理由を説明したり、友達の式から考えを類推したりする活動を充実させる。
- 十二小タイムでは、東京ベーシック・ドリルを活用し、前年度までの既習事項を着実に習得させる。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の質問で、肯定的な回答の割合が、全国や都よりも多かった。

授業以外での勉強時間(塾等を含む)が都と比較して著しく短いことが分かった。「2時間以上」の割合が、都の40.4%に対して、本校は23.2%と、著しく下回った。

キャリア教育に関する質問では、肯定的な回答が多いものが多かったが、「困っている人を進んで助ける」では、全国や都を下回っていた。より実践的な活動に取り組みさせていきたい。

6年児童に奨励している「家庭学習1時間」の目安時間に到達していない児童の割合が44.7%とほぼ半数だった。家庭学習を定着させたい。

学校等で取り組む具体的な改善策

- 「一人一人のキャリア教育と自己実現をめざして」を主題とした校内研究を推進する。社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために必要な力の育成を図る。人間関係形成、社会参画、自己実現の基盤となる力を育てる。これまでの校内研究で取り組んできた「自尊感情の育成」や「ボランティアマインドの醸成」と併せ、キャリア教育を充実させていく。
- 今年度も例年に引き続き、「十二小家庭学習強化週間」を設け、(学年×10分間)の家庭学習、自主学習、読書等の励行を、児童・保護者に呼び掛けていく。学校以外の学習時間が都や全国の平均と比較して短いこと等をもとに、自分に必要な学習時間を考えさせるなど、毎日のスケジュールを振り返らせる。